

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
				○		

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援
------	---------------------

事業名	放課後児童クラブの運営体制の基盤整備
-----	--------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	放課後児童クラブの全児童化に併せ、市民ニーズに応えられる運営内容を確保するため、研修会の実施、運営マニュアルの作成、開設時間の標準化や延長の推進等により、運営体制の充実を図ります。また、全児童化により、受け入れが増加する高学年児童や障害のある子どもへの対応が適切に行えるよう、指導員の資質向上を図ります。そのため、研修の充実、指導員相互の交流や情報交換、障害のある子どもなどの対応を支援するための臨床心理士等の巡回派遣を行います。				
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	障害のある子どもへの支援			

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	研修の充実	研修の充実	研修の充実	研修の充実	研修の充実	具体的な実施内容に変更	
		これまでの進捗状況・今後の予定	研修12回実施(4回増) 安全対策マニュアル作成	研修の体系化 巡回カウンセラーの派遣	研修等の充実	研修等の充実	研修等の充実		
	実施状況	成果・活動指標(上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標	
		18時30分以降まで開設している放課後児童クラブの割合				計画	—	年度	平成26年度
		放課後児童クラブは、多様な団体によって運営されていることから、クラブごとに開設時間などの運営状況に違いがあります。放課後児童クラブに対するさまざまなニーズに応えられるよう開設時間の標準化・延長をはじめ、運営の質を高めます。				実績	87.8 %	内容	100%
						達成度	%	%	
		障害のある児童の受入				計画	—	年度	
		全児童化により、受け入れが増加する障害のある児童への対応が適切に行えるよう、研修の充実や臨床心理士等の派遣により指導員の資質の向上を図ります。				実績	195 人	内容	
						達成度	%	%	
	コスト					事業費	1,141,167 千円	1,437,438 千円	
						うち一般財源	864,372 千円	1,068,725 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	22年度も指導員の資質向上のため、レクリエーション研修や対応能力研修、地域での子育てに関する研修などを新たに加え、実施回数や科目が増加しました。また、運営体制の強化のため、安全管理マニュアルを策定し、安全管理研修も開催しました。その結果、18時30分以降まで開設時間を延長したクラブは、前年度に比べ34クラブ増加し、全クラブの87.8%となりました。平成22年度は市内125校区172クラブにおいて7,791人の児童を受け入れ(前年度比567人増)、障害児の受入は18クラブ40人増の92クラブ195人となりました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	全児童化によって、児童数が増加し、指導員数の増員も想定されることから、安全管理研修を開催し、運営体制の強化を図りましたが、さらに運営支援が必要であると考えています。また、研修内容の充実が、障害児の受け入れ等に対する指導員の理解につながっており、事業の有効性は高いと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		3	22年度の研修は、一部外部講師を活用して内容の充実を図りましたが、ほとんど市内講師を活用し、低コストで実施しました。多様化するニーズに対応し、指導員の専門性を高めるなど、研修内容の充実・強化を図るためには、ノウハウがありコスト低減が可能な団体への委託を将来的に検討することが必要であると考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	登録児童数が増加傾向にあり、運営規模が拡大している中で、研修会の実施や運営マニュアルの作成等により、指導及び運営体制を確実に担保する必要性は非常に高いと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		3	放課後児童クラブは、多様な団体によって運営され、クラブごとに開設時間等の運営状況に違いがあります。標準化を進めながら、運営の充実に取り組んでいることから、現在のところ、他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当だと考えます。
	今後の方向性			ア
	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了		

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	運営体制の強化のため財務に関するマニュアルを策定し、研修を行う。引き続き指導員の資質向上のための研修を行う。障害児を受け入れているクラブに臨床心理士等の専門員を派遣し、指導員に助言を行い、障害児の受け入れをスムーズにします。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
				○		

担当局/課	保健福祉局・障害福祉課
連絡先	582-2424

政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援
------	---------------------

事業名	総合療育センター等の専門スタッフの派遣
-----	---------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等に「総合療育センター」や「発達障害者支援センター」から専門スタッフを派遣し、指導・助言を行うとともに、保育士等の職員研修を充実することで、障害のある子どもの特性やかかり方への理解を促進します。				
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	障害のある子どもへの支援			

目的実現の為に実施する内容 手段	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由			
		当初の予定			専門スタッフの充実にに向けた取組みへの支援 社会福祉法人に運営委託						
		これまでの進捗状況・今後の予定	発達障害者支援センター及び地域支援室による保育所等への指導件数実績 191件			専門スタッフの充実にに向けた取組みへの支援 社会福祉法人に運営委託					
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標		
		発達障害者支援センター及び地域支援室の指導実施件数					計画	-	197 件	年度	
		障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。					実績	191 件		内容	
							達成度				
							計画			年度	
							実績			内容	
							達成度				
	コスト						事業費	78,210 千円	71,826 千円		
							うち一般財源	60,025 千円	54,397 千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	指導件数は毎年増加し、本事業利用者を順調に伸ばしています。
------	-------------------------------------	-------------------------------

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	総合療育センターは、本市の障害児療育・支援の中核施設であり、また、総合療育センター等の専門スタッフによる保育所等職員の育成は、より多くの相談者の福祉向上、問題解決を効果的に実施することができることから市民の総合療育センターの機能充実にに対する期待は大きいと考えます。		
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4		
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4		
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4		
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ア：事業の見直しを図ることが可能 イ：休止・廃止を検討 ウ：現状のまま進めることが適当 エ：終了 保育所や幼稚園などにおいても障害のある子どもが在籍しており、保育所等の職員の資質向上が必要であるため、専門スタッフによる指導事業を継続的に実施します。		

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	引き続き保育所等の職員の資質向上等のため、指導事業を継続的に実施します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--------------------------------------	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
				○		

担当局/課	保健福祉局・障害福祉課
連絡先	582-2424

政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援
------	---------------------

事業名	日中一時支援事業(放課後対策)の充実
-----	--------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	当該事業は、障害サービス指定事業所等において、市内に居住する障害児等を一時的に預かり、日常生活訓練等を行うことで、その者の有する能力及び適性に応じた日常生活または社会生活を営むことができるようにするとともに、障害児等を日常的に介護している家族の負担を軽減します。				
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	障害のある子どもへの支援			

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由			
		当初の予定	受入定員数315人/日	受入定員数330人/日	利用者の拡大を踏まえ、受け入れ先の事業所の確保に努める						
		これまでの進捗状況・今後の予定									
			受入定員296人/日	利用者の拡大を踏まえ、受け入れ先の事業所の確保に努める							
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）						平成22年度	平成23年度	目標	
		日中一時支援事業(放課後対策)の受入定員数					計画	315 人/日	330 人/日	年度	
		本事業における受入定員数の増加により、利用待機者の減少につながるのと同時に、利用者の増加につながります。					実績	296 人/日	人/日	内容	
							達成度	94 %	%		
							計画			年度	
							実績			内容	
							達成度				
	コスト						事業費	215,125 千円	225,715 千円		
							うち一般財源	112,128 千円	56,429 千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	受入定員数を増やす取組みとして、新規事業者の参入を呼びかけるとともに既存の事業者へ定員枠拡大を依頼したことにより、受入定員も増加させることができ、当該事業の利用促進につながりました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があつたのか。	4	新規事業所の参入等による受入定員増加に伴い、着実に利用件数等が伸びていることからして、「障害のある子どもへの支援」に対する有効性は高いです。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	当該事業に関する業務を障害者(児)の介護及び療育にノウハウをもつ民間の事業者へ委託しており、経済性・効率性は高いと考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	民間事業者から同種のサービスを受給した場合、経済的な負担が重くなることが予想されます。経済的な理由により、特別な支援を要する家庭であってもサービスを受けられないケースが生じます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか。市の関与をなくすることはできないのか。	3	一定レベルのサービスを提供する事業所が多く存在し、競争により報酬単価が引き下げられたとしても、経済的な理由により、サービスを受給できない家庭が存在することは予想されるため、市の関与をなくすることはできません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	重度障害児が利用しやすい制度にしてほしいとの要望や予算の状況を踏まえ、今後一層、事業の充実を図ります。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	事業者の新規参入を促し、受入定員の増加に努めるとともに、事業の充実を図るための検討を行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	保健福祉局・障害福祉課
連絡先	582-2424

政策分野	特別な家庭を支援する子どもや家庭への支援
------	----------------------

事業名	小学生ふうせんバレーボール大会
-----	-----------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	障害のある小学生と障害のない小学生で構成されたチームによる「小学生ふうせんバレーボール大会」を開催し、障害のある子どもの社会参加の促進及びこころのバリアフリーの推進を図ります。				
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	障害のある子どもへの支援			

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定						
			目的達成に向けた積極的な取り組みの推進					
	実施状況	これまでの進捗状況・今後の予定	参加者数 440人 (内児童 189人)		目的達成に向けた積極的な取り組みの推進			
		成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	
		大会参加者数				計画	440 人	440 人
		参加者数の増加が、障害のある子どもの社会参加の促進及びこころのバリアフリーの推進につながることから指標として掲げました。				実績	440 人	
						達成度	100 %	%
						計画		
						実績		
						達成度		
コスト						事業費	2,600 千円	2,400 千円
						うち一般財源	650 千円	600 千円

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	順調に参加者が増加しています。
------	-------------------------------------	-----------------

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があつたのか。	4	多くの方に参加していただき、障害のある子どもの社会参加の促進とこころのバリアフリーの推進を図ることができています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	大会の開催にあたっては、多くのボランティアの協力を得るなど経済的・効率的な運営に努めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	障害のある方の社会参加の促進に取り組んでいる現在、本大会を開催することは、「障害のある子どもへの支援」に向け、効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	4	ふうせんバレーボールは、本市発祥のスポーツであり、また障害の理解や障害のある方の社会参加の促進に寄与できるため、実施主体としては市が適切です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後とも、目的達成に向けて取り組み、より多くの子どもたちが参加し、保護者などの観客を含めた参加者の増加を目指します。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	参加者の増加や、ふうせんバレーボールの普及に取り組みます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	-------------------------------	----------------